



いとう ひろかず  
伊藤 博和さん

出生地 大阪府  
前職 IT 会社役員  
取り組み内容 古民家での農泊、りんごや温泉、雪を活用した地域内資源の商品化とその販売促進

かまた よしふみ  
鎌田 祥史さん

出生地 青森県  
前職 システムエンジニア  
取り組み内容 温泉に関する取り組み、Web の運用支援やパンフレット発行などの情報発信活動

ささき なおみ  
佐々木 直美さん

出生地 青森県  
前職 イベント・販促業務  
取り組み内容 こぎんの観光活用、竹細工の継承や工芸品の販促など、地域に根付く手仕事の支援活動

## 特集 これからも弘前で

令和2年10月26日、3年の任期を終えた3人の地域おこし協力隊員。彼らは岩木地区での活動を通して何を、そしてこれからの生き方とは。協力隊員として活動した3年間を振り返り、これからの対する思いを聞きました。

### それぞれのきっかけ

**鎌田** 僕の出身は青森市浪岡で、大学入学と同時に県外に。東京での仕事はやりがいがありましたが、このまま東京で暮らすことに違和感がありました。この違和感は何だろうと考えて、自分が青森県についてあまり知らないことに気づき、地域について調べているうちに「地域おこし協力隊」の存在を知りました。ちょうど岩木地区の地域おこし協力隊の募集をしてい

たので、幼い頃からなじみのあった岩木山や温泉に引かれて志望しました。  
**佐々木** 私は20歳の時に弘前を離れました。当時は「弘前には何もない」と思って飛び出しましたが、離れて年齢を重ねるうちに、岩木山や四季の美しさ、食の豊かさ、伝統工芸や文化など、ふるさとには多くの魅力があることに気が付きました。東日本大震災があってから、大学の社会人講座などで地方のコミュニティデザインについて学

んでいたこともあり、いずれは地方に関わる仕事をしたいと考えていました。子育てを終えて、これからの人生をどこで何をして生きていきたいかと考え始めた頃、地方で自分の得意分野を活かせる地域おこし協力隊の制度に興味を持ち、弘前市でも募集していることを知り、志望しました。  
**伊藤** 大阪生まれの僕は、弘前出身の妻と出会ったことで弘前市を知りました。趣味のスキーで秋田県や岩手県、北海道を訪れたことはあったけれど、青森県は本州で唯一足を踏み入れたことのない土地でした。関西で22年、関東で26年生活して、生活スタイルを変えたいと思っていたので、思い切って岩木地区の地域おこし協力隊に応募しました。

### こぎん刺しが つないだ思い

**佐々木** 私が印象に残っているのは「岩木山1625大作戦(※)」でこぎん刺しタペストリー(上の写真の背景)を制作したことですね。  
※令和元(1)年6月25日に、岩木山の標高1625メートルにちなんで開催された一連のイベント。  
**鎌田** 他にもいくつか関連のイベントがありましたけど、佐々木さんはずっと会議室にこもってタペストリーを作っていた記憶があります。  
**佐々木** 全国から募集した10cm四方のこぎん刺しを組み合わせてできています。材料費も送料も協力者の負担という

## 地域おこし協力隊とは…

都市部から地方などに移住する人を招き入れ、その地域への定住・定着を図る取り組みを行う総務省の制度です。おおむね3年程度、地域に居住しながら、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの支援、農林水産業への従事、住民の生活支援などのさまざまな「地域協力活動」を行います。

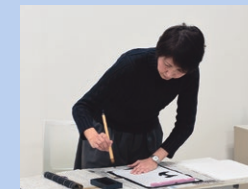
書き初めをお願いすると、3人は「小学生以来!」「懐かしい」と言いながら思い思いに新年の抱負を書いてくれました。3人が書き初めに込めた思いとは…。



**伊藤** 「地産外商」とは、地元産のもの、地元の人が作ったものを外の人に売るという意味です。これは協力隊時代から取り組んできたことであり、これからも僕の人生の軸となっていくものです。



**鎌田** 津軽の温泉は湯量の多さが特徴の一つ。浴槽の縁に頭を乗せて寝ている人がたまにいますが、あれは全国どこでもできるわけではなく、溢れるほどの湯量があってできること。僕も熱い情熱をかけ流して頑張ります!



**佐々木** まだまだやりたいことがたくさんあります。年齢や性別を言い訳にせず、どんなことにも前向きに「攻め」の気持ちで挑みます。「守り」に入るのはまだまだ早い!



ことで、企画の段階では「本当に集まるの?」と言われたこともありましたが、いざ始めてみると大きな反響があって、450人以上から作品が届いたんです。これほど集まると思っていたので、当初は岩木山を作る計画ではありませんでしたが、集まった作品を並べて組み合わせるうちに「岩木山やっちゃう?」と。  
**鎌田** 試行錯誤の繰り返しで大変そうなのが伝わってきて、実は「本当に完成するのかな?」と内心心配していました。  
**佐々木** 私自身も本当に完成するのか不安でいっぱいでした。でも作品に添えられた手紙に励まされて。「企画してくれてありがとう」「青森に行ったことはないけれど、先にこぎんだけ行かせますね」など温かいメッ

セージがたくさん! 何が何でも完成させるぞ! と気合いを入れ、地域の人や職員の協力のもと、展示前日の夜に完成した時は達成感でいっぱいでした。  
**伊藤** 一枚一枚が違っていて、見れば見るほど面白いですよね。器用な人が多くて驚きます。  
**佐々木** 作品は、貸し出していないけれど、今でも岩木庁舎2階のラウンジで見ることができるので、多くの人に見てほしいと思います。



▲制作の様子